

大阪府立茨木工科高等学校

硬式野球部

活動理念

走姿顕心

声姿顕心

～合言葉は「つながり」～

大阪府立茨木工科高等学校硬式野球部 スローガン

そう し けんしん

走姿顕心（走る姿はその人の心を表す）

高校野球において「全力疾走」というキーワードはどのチームでも使われている。練習においてメニュー間の全力疾走、試合の攻守交代や打者走者の全力疾走などは、あえて目指すものではなく勝利を目指すチームであるならば「出来て当然」であると考え。また、走姿顕心という言葉の通り、同じ全力疾走でも「やらされている」か「自らの意思」かは走る姿を見れば違いは明らかにわかるものである。

同じ全力疾走でも、自らの意思を持って走ることで、その姿を見ている人の心に何かを訴えることができる。試合でたとえ凡打になったとしても、一塁ベースを全力で駆け抜ける姿を見てチームが活気づく。守備で大量失点をしたとしても、ベンチに全力で帰ってくる姿がチームが崩れることを止めてくれる。練習の雰囲気が悪い時に、誰かの全力疾走がチームメイトの心に火をつけることもある。一人ひとりが意思を持って、自らの走る姿でチームに貢献していこう。

せい し けんしん

声姿顕心（声を出す姿はその人の心を表す）

「意味のない声」と「意味のある声」の違い。それは「その声に自分の想いが込められているかどうか」である。ただ単に何も考えずに出している声からは何も生まれない。

「声」には様々な種類がある。「相手に立ち向かう勇気の声」、「自分の気持ちを高める心からの叫び声」、「仲間を思いやる励ましの声」、「状況に応じた指示確認の声」、「相手の気持ちに応える返事の声」など、声には必ず目的がある。声は必ず相手に届けなければいけない。

そうやって相手に声を届けようとしていけば、自然と大きな声になり、その声につながり、チームの雰囲気を作る。自分たちの想いの集まりでできた雰囲気は、何にも負けない自分たちの武器となる。想いを込めて、相手に声を届ける。一人ひとりの想いがチームを強くする。

～合言葉は「つながり」～

野球はチームスポーツではあるが、自分が打ったり守ったりする時は不安があっても誰も助けしてくれない。毎日の練習で気持ちの入らない時もあるだろう。悩みがあっても不安な時もあるだろう。そんな時に自分を奮い立たせてくれるのは、仲間である。誰かの走る姿を見て勇気をもらう。かけてもらった声を受け取り、力に変える。そうやってお互いの心が「つながる」ような野球部にしたい。「つながり」という言葉を胸に、仲間とのつながりを大事にして、大阪府立茨木工科高等学校野球部員として大きく成長してもらいたい。

走姿顕心 声姿顕心 ～合言葉は「つながり」～

基本理念

1. 見る人の心を動かすような活動、プレーができる野球部を目指す。
2. 自分の長所を発揮し、他者に貢献できる人間を育成する。
3. 野球の正しい知識を身につけ、それを伝えることができる人間を育成する。

この基本理念の実現のために以下に3つの行動指針を挙げる。

理念実現の為の行動方針

1.【態度の向上】野球だけでなく、学校生活や今後の人生に役立つ態度の向上を目指す。

そのために、以下に3つの具体的項目を挙げる。

1. 時間や提出物の期限を厳守し、時を守る。
2. 身の回りの整理整頓、履物や道具を揃え、場を清める。
3. 挨拶や返事は明るく・はっきりと・大きな声で。そして自分からの挨拶を心がけ、礼を正す。

2.【価値観の向上】自らが上手くなるために、主体的に行動が起こせる価値観を育てる。

そのために、以下に3つの具体的項目を挙げる。

1. 「守・破・離」の原理原則を守って行動する。
2. 常にベクトルを自分に向ける。「主体変容」まずは自分が変わる。
3. 常に感謝の気持ちを持ち、他人の為の事であっても全力で取り組める豊かな心を育む。

3.【組織力の向上】思わず知らず、応援される集団となる。

そのために、以下に3つの具体的項目を挙げる。

1. 一人ひとりが本気になり、「他人依存」ではなく「自力達成」の精神で行動できる集団となる。
2. 自分たちの武器にこだわりを持ち、それを徹底できる集団となる。
3. 自分たちの野球を信じ、最後まで諦めずに、勝利を目指せる集団となる。

大阪府立茨木工科高等学校硬式野球部

基本理念

1. 見る人の心を動かすような活動、プレーができる野球部を目指す。

高校野球は他の高校スポーツとは違って世間から大きく注目されている。春や夏の甲子園では全試合テレビ中継をされ、新聞にも大きく取り上げられている。甲子園での選手のプレーを見て甲子園への夢を見る小中学生、また私たちであってもプレーを見て心が動かされ、感動を覚えることが多くある。では、甲子園でのレベルの高い戦いだから我々は感動するのだろうか。

人間は人の一生懸命な姿に感動するのである。それは甲子園であっても練習試合であっても変わらない。毎日の練習や試合を見ることのある茨木工科高校生や教職員、保護者、OB、地域の方々などに、我々が一生懸命プレーする事によって同じく「夢や感動」を与えられるのではないか。そんな野球部を目指すからこそ、誰からも愛され、応援されるチームになると考える。

2. 自分の長所を発揮し、他者に貢献できる人間を育成する。

野球の活動であっても、他の事であっても、野球部員を「人の役に立てる人間」と「人に必要とされる人間」に育成する。人間にはそれぞれ長所と短所があり、完璧な人間などそう多くは存在しない。だからこそ、互いに不足部分を補っていくべきではないか。野球の試合において、ベンチに入れるのは20名、メンバーとして試合に出場できるのは9名しかいない。それぞれの部員には自分の役割（長所）があり、誰にでもある「自分の長所」を見つけ、「自分は〇〇でチームに役立っている」という「存在意義」を、「自分はチームに必要とされているんだ」という「存在価値」を各部員が持ち、それぞれがその役割を果たすことが試合での成果につながる。社会に出ても、仕事とは自分の長所を発揮し他者に貢献するものであるので、高校生のうちからこの力を育成したい。

3. 野球に対する正しい知識を身につけ、それを伝えることができる人間を育成する。

野球には様々な作戦があり、その作戦にはセオリーと呼ばれる実行するのに効果的なタイミングがある。作戦だけではなく、野球の1つ1つのプレーには意味がある。それらを理解してプレーをすることが作戦成功や、いいプレーにつながり、「考える野球」につながる。

野球部の中でも先輩になれば下級生に対して野球を教えないといけない。将来自分が野球を伝える側になった時に、正しい知識を伝え、伝えた相手を成長させることができるような人間を育成する。

この基本理念を実現するために以下に3つの行動指針を掲げる。

行動方針

1. 【態度の向上】野球だけでなく、学校生活や今後の人生に役立つ態度の向上を目指す。

高校野球はあくまで教育の中に位置づけられるものであって、それを忘れてはいけない。野球が上手いだけでは、たとえ甲子園に出場したとしても社会に出れば通用しないのである。グラウンドで一生懸命練習することは当たり前であるが、学校の目的の1番は勉強をすることである。それを疎かにして野球を1番に考えてしまう者が多い。授業を疎かにせず真面目に取り組んだ者のみがグラウンドに立つ資格を有する。服装・態度・行動のどれをとっても一目置かれるような存在でないといけない。1人1人が茨木工科高校野球部員としての自覚を持ち、他の生徒に流されることなく学校生活を送ることが、茨木工科高校が変わるきっかけにもなる。どんな時も一生懸命、素直に謙虚に行動できる態度を育成するために、以下に3つの具体的行動指針を定める。

1. 時間や提出物の期限を厳守し、時を守る。

遅刻をすることで他人に迷惑がかかり、遅刻をすると信用を失う。また、心に隙や油断があるから遅刻という結果になる。心に隙や油断があると、それは怪我や事故につながる。提出物も早めに準備に取り掛かって期限間近になってあせらないようにする。「時」をしっかりと意識して行動しなければならない。

2. 身の回りの整理整頓、履物や道具を揃え、場を清める。

身の回りが整理されていないと自然と心が荒んでいく。身の回りを整理し、履物や道具を揃えることで自らの心はきれいになる（ブローケンウインドー理論）また、整理したり揃えようとすることで、様々なところに気づく力が高められる。結果としてこれが上達に影響する。自分の活動する「場」に常に気を配らなくてはならない。

3. 挨拶や返事は明るく・はっきりと・大きな声で。そして自分からの挨拶を心がけ、礼を正す。

挨拶や返事などは野球だけでなく社会生活においても基本となる。相手より早く挨拶することは、相手より先に気づかないといけないので、気づく力が高まる。元気に・明るく・はっきりと挨拶や返事を行うことで、自分(たち)の印象が良くなり、応援してもらえる人(チーム)になる。どんな相手に対しても「礼」を正す意識を持たなくてはならない。

2. 【価値観の向上】自らが上手くなるために、主体的に行動が起こせる価値観を育てる。

指導者がいくら高度な技術を教えても、選手が「やる気」を持たなければそれを身につけることはできない。ではそのやる気はどのようにしたら出るのだろうか。それは明確な「目標設定」である。その目標も指導者から与えられたものではなく、自分自身が考え出したものではない。そしてその目標に基づき、自らの意思で行動できてこそ、野球だけでなく人間として成長することができる。野球以外の全てのことに言えることだが、自分を成長させるのは自分以外誰もいない。自らの行っている事に自ら価値観を見つけて行動できる能力を育成するために、以下に3つの具体的行動指針を定める。

1. 「守・破・離」の原理原則を守って行動する。

「守」とは、まず教えてもらった事に忠実に練習するというステージ。「破」とは、教えてもらった事を自分なりにアレンジして練習するというステージ。「離」とは、教えから離れて自分オリジナルの技術を身につけるステージ。この原理原則から外れると技術は向上しない。まずは「守」の指導者からの教えを守って練習することから始める必要がある。

2. 常にベクトルを自分に向ける。「主体変容」まずは自分が変わること。

周囲が変わらない、環境が変わらないと愚痴をこぼす前に「自分が変わる」という考えを持つべきである。「主体変容」とは、「自分である主体が変わる(=変容)ことで、周りを変えられる」という意味である。社会ではリーダーにこの主体変容が求められている。悪い結果が出た時、その原因を他者にではなく自分にあると考えて変わろうと努力する。チームの一人ひとりがこの考えを持ち、行動することができれば、この茨木工科高校野球部は大きく変わることができる と確信する。

3. 常に感謝の気持ちを持ち、他人の為の事であっても全力で取り組める豊かな心を育む。

経済的な理由で野球をしたくてもできない人達もいる。「野球ができる」という事を当たり前のように考えてはいけない。保護者や地域の方々、OB や指導者などその他大勢の人々の協力の元で茨木工科高校硬式野球部は成り立っている。その全ての方々に感謝の気持ちを持ち続けなければいけない。また、野球というスポーツはチームプレーである。お互いが助け合って初めて1つの勝利を手にすることができる。「情けは人の為にならず」1人の問題は全員の問題と考えて、助け合わなければならない。

3.【組織力の向上】 思わず知らず、応援される集団となる。

どんな時も、こつこつ裏表なく頑張る姿を「野球の神様」は見ている。日頃の生活から全てを味方にするような取り組みが試合の中のプレーに出て、それがプレーを見る人の心を動かし、全く茨木工科高校に関係のない人からの声援を呼び、試合の流れを呼び、運を呼ぶ。これが「野球の神様」の正体なのではないだろうか。

日々の取り組みの中で、学校の教職員や一般生徒、地域の方々にも野球部員が応援されるような人間となって本気で活動を行えば、野球部を見る人すべてが応援してくれ、それが自分たちにとっての「野球の神様」となって目標達成に向けての大きな後押しをしてくれるはずである。そのような、思わず知らず応援される集団となるために、以下に3つの具体的行動指針を定める。

1. 一人ひとりが本気になり、「他人依存」ではなく「自力達成」の精神で行動できる集団となる。

監督やコーチ、OB が自分の技術を向上させ、試合に勝たせてくれるのではない。全ては自分の努力しかない。「誰かが何とかしてくれる」という「他人依存」の意識ではなくて、「自分で何とかする」という「自力達成」の意識が自らを向上させるためには必要不可欠である。本気とは、自らの意志で行動することである。自分たちが上手になりたいから、試合に勝ちたいから自ら動く。どんな時も積極的に自ら行動できるような集団を育成する。

2. 自分たちの武器にこだわりを持ち、それを徹底できる集団となる。

弱者が強者に勝つために必要なことは、自分たちが弱者であることを自覚し、弱者としてやるべきことを完璧に近いくらいやり遂げることである。弱者は、打つ、捕る、投げる、以外の部分で個性を出していかなければいけない。まずは茨木工科高校野球部が自分たちの武器と考える取り組みを自分たちで徹底して100%やりきることによってチームの徹底力・組織力を向上させ、それを全てにつなげることができる集団を育成する。

3. 自分たちの野球を信じ、最後まで諦めずに勝利を目指せる集団となる

高校野球は教育の一環であり、勝利至上主義であってはいけない。だからこそ茨木工科高校野球部は理念目標と成果目標を明確にした。その2つの目標を追い、最後には勝利を持って自分たちの野球の成果を証明しなければいけない。たとえどんなに劣勢になったとしても、部員全員が、諦めず、一生懸命、最後の最後まで自分たちの勝利を信じて戦うことができる。そのような自分たちの野球を最後の最後まで信じ切れる集団を目指す。